

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	5 月 7 日 (水)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ
サイエンス ~天気~ くもと雨についてしろう
活動テーマに関する 日頃の興味関心について

日頃から子どもたちは空を見上げて雲の形や天気の変化に興味を示しており、「今日は晴れるの?」「雲はどうやってできるの?」などの質問が多く見られる。また、雨が降ったり風が強く吹いたりすることにも関心をもち、天気が変わる理由について知りたがる様子がある。

活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00~10:05	<p>・4月④の活動でどんな天気の日公園で探索したか振り返る。</p> <p>・「公園に行った日はどんな天気だったか覚えている?」「公園に行って遊ぶことが出来る日はどんな天気?出来ない日はどんな天気?」「どんな天気があるのかな?」等と問いかけをして振り返りや発言がしやすいよう工夫する。</p> <p>・くもりと雨について考えていく。雲はどのように表れるのか?どのように出来るのかを子どもたちに聞く。</p> <p>・意見はホワイトボードにまとめる。</p> <p>・「雲はどこからくるのかな?」「雲は何でできているのかな?」「雲はどんな形がある?どんな色がある?」「雨はどこからくるのかな?」「雨は何でできているのかな?」と問いかけ、イメージしやすいように声をかける。</p>	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内で写真や図を見ながら話し合えるスペースを確保する。 ・室内で実験が安全に行えるスペースを確保する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気ポット ・透明のビニール袋 ・雲の写真集 ・雲・雨・雪の発生原理の図 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・写真や図を掲示するためのマグネットなど <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲の写真集 (巻雲、巻層雲、巻積雲、乱層雲、高層雲、高積雲、積乱雲、積雲、層雲、層積雲、穴あき雲、レンズ雲、スーパーセル等) ・雲・雨・雪の発生原理の図 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気ポットとビニール袋を使った実験を予め検証しておく。 <p>【実験】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①電気ポットの中にお湯を沸かす。 ②お湯が湧いたら、電気ポットの蓋を開け、湯気を放出する。 ③湯気が上がっている上に透明のビニール袋を広げ、湯気を受け止める。 ③ビニール袋の口を閉じ、中の湯気を観察する。 ④時間が経ち、湯気が水の粒となったら、ビニール袋の口を開け水滴を落とす。
10:05~10:15	<p>・写真や図を使ってさまざまな雲の形を観察。</p> <p>・グループで意見を出し合う。「雲の形はどうなっているかな?一緒?違う?」「違うとしたら、どんな形がある?」「雲はどこからくるかな?」「何でできているのかな?」「雲と関係あるのかな?」「友達の意見を聞いて同じところ、違うところがあるかな?」と問いかけ、発言を援助する。</p>	
10:15~10:35	<p>・話し合ったことをホワイトボードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さによって雲の形が異なること、雲が水蒸気からできていることを図や写真を見ながら伝える。 <p>・保育者は、子どもたちの意見を引き出したり、形状と重さについて気づけるような問いかけを工夫する。</p> <p>・電気ポットとビニール袋を使った実験をすることを伝える。</p>	

10:35~10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・開始する前に電気ポットから出る湯気はとて熱いことを伝え、観察する際の約束を話し合い決める。 ・実験はどのようになるかをグループで予測を話し合う。 ・話し合ったことをホワイトボードにまとめ ・電気ポットから出る湯気はとて熱いことを伝え、観察する際の約束を話し合い決める。 ・電気ポットとビニール袋を使った実験を行い、雲と雨の発生の仕組みを観察する。 <p>「今日、気づいたことや、感じたこと、思ったことは何かな？」と問いかけ、自分なりの気づきや感想を言葉にする機会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲・雨・雪の発生原理の図をみんなで再度見て、雲は水蒸気(湯気)が上に上がり、ある程度集まって、粒が大きくなり、空から落ちて雨になるということを確認する。 <p>「空から降るものは雨だけかな？」と問いかける。</p> <p>・次回は、雨と雪についての実験を試みることを提案する。</p>	
-------------	---	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・本活動では、雲の仕組みや特徴、雨ができる仕組みについて、写真や図を使った観察を通じて学んだ。 ・導入では、天気についての話を広げ、子どもたちの知識や疑問を引き出した。その後、さまざまな雲の写真を見ながら違いを考え、雲のでき方についてグループで意見を出し合った。 ・また、電気ポットとビニール袋を使った実験を行い、雲と雨の発生についてより実感をもって学ぶことができた。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この雲、ふわふわしてるね!」「こっちは細長いね!」、 「雲って空のどこからくるの?」など、子どもたち同士で意見を交換しながら、「こういう雲は雨が降るときにできるのかな?」と話し合う様子が見られた。 ・実験では、「袋が白くなった!」「湯気が集まると水になるんだね!」と驚きの声が上がった。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてこの雲は高いところにあるのかな?」と問いかけ、子どもたちが自分で考える機会を作った。 ・結論を急がず、考えるプロセスを大切にした。 ・実験時は安全に配慮しながら、子どもたちが自ら試せるようにサポートした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・本テーマである雲と雨に結び付けた観察ができるような問いを行ったことで、実験結果の差がより天気への不思議さを広げるきっかけとなった。 ・予想を立てることが難しい子もいたが、子どもたち同士で意見を共有することで考えを深められた。 ・雲の写真を見比べることで、子どもたちが違いに気づき、興味をもちやすかった。 ・結果を見てすぐに納得するのではなく、「どうしてだろう?」と考え続ける時間をもっと作ると良いと感じた。 	

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	8 月 27 日 (火)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ	
たべもの ~野菜~ 野菜カードをつくろう！	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
<p>これまでの活動を通して、子どもたちは野菜の形・色・育ち方・食べる部分などさまざまな特徴に関心を持ち、友だちと話し合う姿が見られる。 活動を重ねる中で、知ったことを自分で表現したいという意欲が高まっている。</p>	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00~10:10	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返る。
10:10~10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの野菜カードを作ろうと提案する。 ・どんなものをカードに載せたいか、何を調べたいかを考える。 ・必要な用具を用意する。 ・完成のイメージをもちながら、製作を進める。
10:30~10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を見て、好きなどころなどを伝え合う。
<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の絵本 野菜の図鑑 iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) 子どもたちから必要と意見が上がったものを準備する。(例えば、クラフト用紙、絵の具、クレヨンなど) ホワイトボード ホワイトボードマーカー <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動の記録をホワイトボードなどに貼り出し、振り返りやすい環境を整える。 ・制作しやすいよう、作業スペースを設定する。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで学びを整理し、次の探究への関心を高める。 ・どの野菜、何をカードに載せたいのかを考える。 ・必要な用具を用意し、製作を進める。 ・完成したカードを友達と見せ合いながら、「何を描いたのか」「どんな特徴があるのか」などを発表・共有した。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動で学んだ野菜の特徴を思い出しながら、「これは根っこだったよね」「葉っぱがくるくるしてたよ」とカードに描く内容を自分で考えて表現していた。 ・色鉛筆やクレヨンを使って「本物に近づけたい」とこだわりをもって描いたり、「名前も書きたい！」と文字に挑戦する姿も見られた。 ・友だちとカードを見せ合いながら、気付いたことや表現の工夫を共有していた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんなふう育てていたっけ?」「何色だったかな?」などの問いかけを通して、観察や学びを再構築しながら表現できるように支援した。 ・製作しているカードを認めながら、「おもしろい描き方だね」「根っこがしっかり描けてるね」と、個々の工夫や視点を肯定的にフィードバックした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動の積み重ねにより、子どもたちの中に野菜への理解や印象がしっかりと根づいており、それを自分なりに思い出して描こうとする姿が多く見られた。 ・単に絵を描くだけでなく、「どの野菜を描こう」「どう表現しよう」と考える様子から、表現する力・構成する力が育っていることを実感した。 ・友だちとカードを見せ合うことで、子ども同士が刺激し合い、新たな視点や表現方法を取り入れていた。 ・図鑑やカードを活用しながら、自ら確認しようとする姿も見られ、子どもたちが主体的に知識を深めようとする探究心が育っていることを再確認した。 	<p>この活動が終わっても もうおわりということではなく 給食の時などに担任が 話題を提供してほしい なと思います。そこからまた 子ども同士で広がっていくと 良いですね。</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	11 月 21 日 (金)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ		
アート～ふしぎな絵～ 見る向きで変わる絵		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
友だちと並んでトリックアートの絵本を見たり、室内に飾っただまし絵などのポスターをながめたりしながら「横に揺れるともっと動いて見えるよ。」と楽しむ様子がある。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:20	<ul style="list-style-type: none"> ・トリックアートの絵を見ながら、見え方の違いや目の錯覚について感じたことを友達と話しあえるようにする。 ・トリックアートの見本を提示し、「どう見えた？」と問いかけ、角度を変えて観察し、見え方の違いに気づく。 ・「反対から見ても同じかな？」と疑問を投げかける。 ・「自分でも作れると思う？」と問いかけ、製作への興味を引き出す。 	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが見本を見やすいように環境を整える。 ・各自が製作しやすいようにスペースを確保する。 ・ハサミを扱う前に、友だちとの感覚を開く。 ・ハサミの注意点を子どもたちと確認してから行うようにする。 ・必要に応じて、補助を行い、作業の進行を見守る。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 【準備物】 <ul style="list-style-type: none"> ○描いた絵を貼る台紙(A4の画用紙) ○絵を描くための画用紙(カメとクジラの絵がかいてある紙)
10:20～10:35	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描くための紙を配布し、2枚の枠内にそれぞれ違う絵を描く。 ・「どうやったら2つの絵が見えるかな？」と考える機会を作る。 ・線の通りに紙を切り、折り目に沿って貼りつける。 ・交互に貼ることで、角度を変えたときの見え方を試す。 ・「どうしてこんなふうに見えたのかな？」と考える時間を設ける。 	【子ども用】 <ul style="list-style-type: none"> ○描いた絵を貼る台紙(A4の画用紙) ○絵を描くための紙(コピー紙2枚) ○クレヨン ○ハサミ 【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> ・見本づくり:あらかじめ見本を作っておく
10:35～10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を見せ合いながら、「どう見えた？」と発表する。 ・見え方が変わる仕組みについて話し合う。 ・「絵が立体になるとどう見えるかな？」と投げかけ、次の探究への意欲につなげる。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>トリックアートの不思議に興味を持ち、自分でも作れるのかと試行錯誤しながら活動に取り組んだ。 最初に見本を観察し、視点を変えることで見え方が異なることを体験した。 その後、自分で描いた絵を錯覚を利用して表現し、完成した作品を友達と見せ合いながら「どう見えた？」と話し合った。</p>	<p>【子どもの姿・声】 ・「こっちから見るとカメに見える！」と何度も視点を変えて確認したり楽しむ姿が見られた。 ・友達と協力して二人で1つの作品を作り上げ、順番や上下に気を付けながら一緒に取り組んで完成させようと頑張る姿が見られていた。 ・作り終わったらクラス全体で作品の鑑賞会をし、友達の作品を角度を変えて何度も見ながら「これは面白いね。」と感じたことを共有して楽しむ様子が見られていた。 【保育者との関わり】 ・「どうやってみるといいかな？」と問いかけ、観察の視点を一緒に確認した。 ・「縦から、絵を横に切って貼って見たらどうなるかな？」と探究心を引き出した。 ・「こっちの子の作品はどうか。」「何が見えた？」と作った物を共有して鑑賞する時間を設け、他の子の作品を楽しむ気持ちを味わえるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは視覚の不思議に興味を持ち、楽しみながら取り組んでいた。友達同士と一緒に作品を作り上げていく中で順序や上下などを意識しながら「こう並べるんだよ。」と話し合っって作り上げようと関わる姿が見られていた。 ・完成した作品を全体で鑑賞し合いながら「この作品の文字が書いてあるところが面白い。」「縦に分かれる絵を描いたのいいね。」と感じたことを友達同士で話し合うことで鑑賞する楽しさも味わうことが出来て良かった。</p>	<p>「体験する」から「創り出す」段階へと進み、子どもたちのアートへの関心が深まっていました。 「どこを工夫したのか」「どうしたらもっと錯覚が強くなるかな」などの問いかけを通して表現する力や思考力がより伸びていくと思います。</p>